

一般質問



事業計画変更の周知を

市政会

帰山 寿憲 が問う

事業計画などの変更・報告の在り方について

Q 長尾山総合公園事業などの事業計画において、当初は意見交換、基本計画、実施計画と手順を踏み周知しているが、計画変更後は一般に明確に周知されていない事が多い。

現在の状況、今後の見込み、及び資金内訳や、事業結果の調査、報告も十分とは言えない。一定のルールが必要ではないか。

A 長尾山総合公園等の建設事業では、初め

に基本計画の中で、整備計画や事業概要、概算事業費などを定める。その後、事業化された段階で、詳細設計を行い、施設配置、構造等を計画し、実施事業費等の算定を行う。そのため、基本計画と詳細設計との間には、計画変更が生じることとなる。

計画変更時は説明会の開催や市広報、新聞などで周知することになるが、事業の進捗に伴う状況の変化や事業の結果等については、市民に対し十分周知できていない。

現在、建設が行われている道の駅は、市としても重要な施策であり、市民の関心も高いことから、新体育館整備事業のように、事業の進捗についてリアルタイムに発信していくことが必要である。

今後、建設事業に限らず、主要な施策に記載される重要な事業については、誰もが必要な時に必要な情報を得やすいホームページなどにより、市民に十分情報発信できるよう努める。

〔その他の質問〕

- 公民館主事について
- 雪害に対する支援策について
- 勝山高校への支援について
- 救急車の更新について



児童虐待を減らすためどう向き合うべきか

創政会・公明

北川 晶子 が問う

虐待防止について

Q 子どもの犠牲が増え続ける虐待が、大きな社会問題となっている。県内も3年連続増となっている。そこで当市の独自調査の結果と防止への取り組みを伺う。

A 勝山市には、先般、国からの児童虐待に関する調査の依頼があり、加えて、市独自に各施設での現状、特に、虐待の疑いのある家庭はないか等を合わせて調査する計画となっている。

勝山市要保護児童対策地域協議会を活用し、地域での取り組みを強化していくことが、重要であると考えている。また、様々な子育て支援を活用することにより、身体的、精神的負担の軽減を図り、児童虐待防止につなげていきたい。子ども、保護者のSOSサインを見逃さないことが親子を救う第一歩であり、勝山市として「気づき」の相談、通告に対し、適切な対応に努め、児童相談所等、関係機関との連携を緊密に図り、児童虐待の防止に努めたい。

風しんワクチンについて

Q 風しん対策として、今年4月から3年間、抗体検査と予防接種が無料化される。そこで、当市の対象者への周知と接種率向上への取り組みを伺う。

A 対象者への通知の他に、市広報での周知や、医療機関、健診機関と協力して取り組んでいく。

〔その他の質問〕

- 防災対策について



新しい技術に積極的対応を

乾 章俊 が問う

デジタルテクノロジーの活用について

Q 市内企業も、急速に進展するデジタル技術を活用し、生産性の向上、商品開発、販路開拓を目指す取り組みの強化が求められる。取り組みの状況はどうか。行政として支援すべき。また、行政業務の取り組みはどうか。

A 民間企業の生産性向上を図るため、市としては、国の補助制度などを利用したデジタル技術やIoT技術を駆使した先端設備への更新

を市内企業に働きかけていく。また、市では※RPAの導入について検討し、平成31年度は事務への導入に向けての検証を行う。

Q 2020年度から小学校でのプログラミング教育の必修化を控え、教育現場は準備の試行錯誤の状態にあると推察する。どのように受け止め準備を進めているか。また、生涯学習としてどのように学習活動の期待に応えるか。

A 教員の県主催研修会への参加、ソフト面ハード面の整備についての意見集約と検討などスムーズにスタートできるよう準備に努めたい。また、生涯学習では市民総合大学などにおいて各種講座を開催している。今後は学習の機会と内容を充実させていく。

※RPA（ロボティックプロセスオートメーション）データ入力などの単純なパソコン操作を自動化すること。

〔その他の質問〕

- 人手不足の現状と雇用対策について